

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

<2025年12月②>

施設名	さっちゃんルーム
施設所在地	多摩市桜ヶ丘3-32-1

1. 活動のテーマ <野菜って何?>

おいしいもの どんな味 どこにあるの どうやって作るの 食べられるの どこで作るの
どこで買うの どうやって食べるの。。。
など、子どもたちの不思議に答えるテーマとする（絵本、カードなどを活用する）

<子どもたち毎日食べてる野菜について>

‘スーパーで見る規格野菜’ ‘調理済’ ではない本当の姿を見せ興味、関心を持たせる
近隣に3箇所の利用出来る菜園があり
‘市民農園40平方メートル’ ‘園庭2平方メートル’ ‘シェア畑5平方メートル’ 用途に応じて使い分ける

2. 活動スケジュール

年間を通して（トマト、キュウリ、なす、スイカ、かぼちゃ、とうもろこし、ゴーヤ、枝豆、そら豆、さつまいも、ジャガイモ、イチゴ、ブロッコリー、キャベツ、ほうれん草、大根）など15種類以上の野菜を春夏秋冬季節の移り変わりを感じさせながら子ども達と種まき、苗の植栽から栽培、収穫、調理、食育を実践し子ども達の五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）を育み、子ども一人一人の自然な記憶（思い出）として残す計画です
その他に秋刀魚の塩焼き、干し柿作り、餅つきを通して食育を推進する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

畑を耕し（1ヶ月前）野菜別に肥料、堆肥、石灰などを加えPH調整うねを立てマルチ、支柱をセットし種、苗を事前に準備する

【必要な道具】

スコップ、くわ、じょうろ、バケツ、ハサミ、紐、マルチ、カマ、レーキー、コテ、PH、手袋、長靴、バンド、ネット、テープ、メジャー、堆肥、肥料、石灰、虫よけ、かまど、餅つき用具一式、秋刀魚塩焼き一式、干し柿作り一式などその他

4. 探究活動の実践

<活動の内容> もちつき

もちつきの絵本を見ておもちつきがどういう物なのかを知る。お手玉を使ってもちつき遊びを知る。もち米を見せてお米からおもちが出来ることを知る。1人ずつ小さなきねを持ちおもちつきを体験する。その後おもちを小さく丸めさせてレンジで温めておかきを作り、食べる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

もちつきの時は「ぺったんぺったん」「よいしょ！」と掛け声を出して1人1人がもちつきを楽しんでいた。おもちから湯気が出ていることやおもちがベタベタしている、のびることに気付く子がいた。おもちはまだ食べる事が出来ないため2歳児クラスのみおかきを作り食べたところ大人気だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

食べる時は出来ないが、もちつきを体験するだけでもたくさんの気づきにつながる事を感じた。普段やっているお手玉の遊びももちつきを知ったことでより楽しく出来るようになった。